「野依新池」ヨシ抜根作業

2018.11.25

●目的

この作業の目的は、希少生物であるベッコウトンボの生活環境を維持、改善することにあります。同種にとって望ましい環境は、2000年頃までの野依新池の植生の状態でした。その頃は水面が広範囲に開けており、まばらにヒメガマなどの抽水植物が広がっている状態でした。

その頃に比べ現在は、漏水や有機物の蓄積、植生遷移に伴ってヨシやハスが広がりベッコウトンボにとって生活しやすいとは言えない状態になりつつあります。特に池の東側は、2012年末の漏水工事が行われるまで陸地化が進みヨシが密集してしまいました。このような環境では、雄が縄張りを張ったり雌が産卵を行う事が難しくなります。また、陸地化してしまえば幼虫も生活できなくなります。

そこで、現時点で可能な限りヨシやハスの広がりを押さえ、少しでもかつての理想的な状態に近づけるように毎年農閑期の11月ごろにヨシの抜根作業を10年以上にわたって行ってきたところです。

作業の中心は、地元の「野依ベッコウトンボを守る会」や「NPO法人大分トンボの会」およびボランティアの方々などでしたが、それぞれに組織の高齢化が進み、しだいに、これまでのような作業が出来なくなってきました。そのような事情から4年前から大分トンボの会が作業を終了してしまったたため、干潟の保全団体である「NPO法人水辺に遊ぶ会」が行政などの要請に応える形で広くボランティアを募り、作業を手伝うことになりました。

●ベッコウトンボとは

ベッコウトンボは一年に一度、春先にだけ羽化する種類のトンボで、例年５月のゴールデンウィーク頃に一番多く見ることが出来ます。かつては、宮城県以南で全国的に普通に見られたトンボでしたが、現在では静岡県、山口県、福岡県、大分県、鹿児島県などでしか見ることが出来ません。絶滅危惧種の中でも「種の保存法」の適用を受けている特別なトンボです。同法が出来た時、生き物の中でも大半を占めるとされる昆虫類から唯一指定されたのが同種でした。そういった意味では、種の保存法を代表する種であったとも言うことが出来ます。ちなみに現在、譲渡、捕獲などに関する同法の罰則は懲役5年以下か罰金500万円以下と大幅に強化されています。

●2018年の発生数はカウントされたものの中で日本２位（858頭・植野池方面も含む）

「野依新池」は全国でも数少ない発生地の一つとして研究者などにも注目されています。この池とその周辺には、ベッコウトンボ以外にも、コバネアオイトトンボやオオキトンボといった絶滅危惧Ⅰ類のトンボが見られる他、60種ほどのトンボ類を見ることが出来ます。また、植物も貴重なものが多く残されています。

野依新池以外の発生地は、いずれも広大な面積を誇るところばかりです。研究のメッカと呼ばれる静岡県の桶ヶ谷沼は7.4haほど、北九州市の響灘ビオトープは41ha、鹿児島県の藺牟田池は153ha余りですが、野依新池はわずか1.2haととても小さな池です。このような小さな場所に多くの希少生物群が生活しているという事実は特異であり重要であると思われます。

ここ10年余りは100頭前後の発生しか見られず絶滅も懸念される状態でした。そのような中で、毎年地道にヨシの抜根作業が行われ、掘った溝跡からベッコウトンボの羽化が確認されるなど一定の効果をあげていました。漏水工事の効果も加わってか植野池を含めた2015年の発生数は800頭を越え、2016年は1200頭近い数の発生が見られました。作年は227頭と減少しましたが、今年は858頭とここ数年は安定しています。これらの結果は、抜根作業や漏水工事などの保全活動による一定の結果であったと考えられます。

ベッコウトンボの保全には、池内の環境の維持改善と羽化してからしばらくの間 生活するチガヤなどの草丈の低い枯れた草原が必要になります。池内の環境が悪化しても、草原が無くなっても同種は継続的な発生が難しくなります。池内の作業は、高齢化に伴ってその継続性が難しくなりつつあり、草原の確保は農地保全との兼ね合いで問題が生じることも考えられます。同種の保全管理に関するなんらかの措置が必要な時期が来ていると思われます。

池内抜根作業の内容

2018.11.25

●目的

この作業の目的は、大きく二つあります。一つはベッコウトンボが生活する場所を確保するため、もう一つは池内にたまった枯れた草の葉、根、茎などの有機物を池の外に出して陸地化を防ぐためです。

ベッコウトンボが生活するためには、ある程度の開けた水面が必要になります。あまりヨシなどが密集してしまうとオスがナワバリをはったり、メスの産卵がしにくくなります。ですので、ヨシの根を抜いて繁殖時期にベッコウトンボが生活しやすい環境を作ります。

もう一つは、池が陸化したりするのを防ぐためです。ため池は、そのままにしているとやがて植物が水面を埋め尽くし、しだいに枯死した草などがたまって少しずつ陸になっていきます。ベッコウトンボは、このような場所を好まない傾向があります。なので人の手で彼らが好む状態を維持する必要があります。難しい言葉で言えば植生の遷移を止めるために行う作業ということになります。

●作業内容

抜根作業は、大きく２班に分かれ、それぞれ5名ほどが池内に入り、カマを使って水中の泥の中にある根を刈り取ります。それを岸までのロープをつないだ縦横60×90㎝ほどのプラスチック製の箱に載せます。それを堤上の4、５名がロープを引いて引っ張り上げ、レーキなどを使って堤の端にひろげていきます。

池内の作業では、からまった植物の根を抜くので、胴長をはいて上半身を池の中につけることになります。泥に手をつっこんで絡まった根をカマで切り分けます。ある程度泥と水を落としてプラスチック箱に載せます。見えている草だけで無く、水中の根を切り取る事が重要です。なかなか前へ進むことが出来ないのでもどかしいですが、根を刈ることが重要です。

池上での作業は、ミンナで力を合わせることが大切になります。互いに声をかけあって引っ張って下さい。時には下の作業者が重い荷を積んでしまうことがありますので、難しいそうなときには声をかけて減らしてもらって下さい。

抜根作業は、午前3時間、午後2時間程度を予定しています。12時頃昼食の予定です。お弁当とお茶、暖かいものを出させていただきます。あまり長く休むと体が冷えて風邪をひきやすくなるのでご注意下さい。かなりの重労働ですので体調に問題のある方は無理をせず様子をみて休んで下さい。濡れたり、寒さの中の作業ですので常に自分の体と相談しながら作業をして下さい。

野依新池の環境は、ベッコウトンボが好む状態から少しずれた状態にあります。この抜根作業である程度の改善は見られますが、これで完全というわけではありません。加えて東側のヨシの広範囲の刈り取りと周辺草地の確保、維持が必要になります。

日　　時	2018年11月25日（日）　午前9時頃から午後3時頃まで。
食　　事	主催者がお弁当、お茶を準備します。他に暖かいものも出す予定です。
場　　所	大分県中津市東部　野依新池内および北側の堤
参 加 者	野依ベッコウトンボを守る会　ボランティアの皆様　NPO法人水辺に遊ぶ会
道 具 類	貸出可　胴長（10着程度）　ゴム長手袋（10程度）　ゴム手袋（30程度） 簡易雨具（4）　軍手　タオル等
そ の 他	小雨の対策としてカッパ等の雨具の用意が必要です。各自対策をお願いします。 持参の汚れた胴長を洗洗い場は基本ありせんが、集会所前の水道が使えます。